

## 子ども・若者を取り巻く現状

### 1 子ども・若者人口と世帯の現状

- (1) 子ども・若者人口
- (2) 世帯の状況と推移

### 2 子ども・若者自身の状況

- (1) 子ども・若者の育成
  - ①生活習慣
  - ②体力
  - ③学力
  - ④意識
- (2) 子ども・若者の地域活動
- (3) 子ども・若者の体験、交流活動
- (4) 子ども・若者の参画
- (5) 若者の就労等

### 3 困難を有する子ども・若者の状況

- (1) ニート、ひきこもり
- (2) 不登校、いじめ
- (3) 非行
- (4) 子どもの貧困
- (5) 児童虐待

### 4 家庭・地域・社会環境

- (1) 家庭
- (2) 地域
- (3) 情報通信
- (4) 防犯
- (5) 各相談窓口等における相談状況

### 5 市の青少年施策に求めること

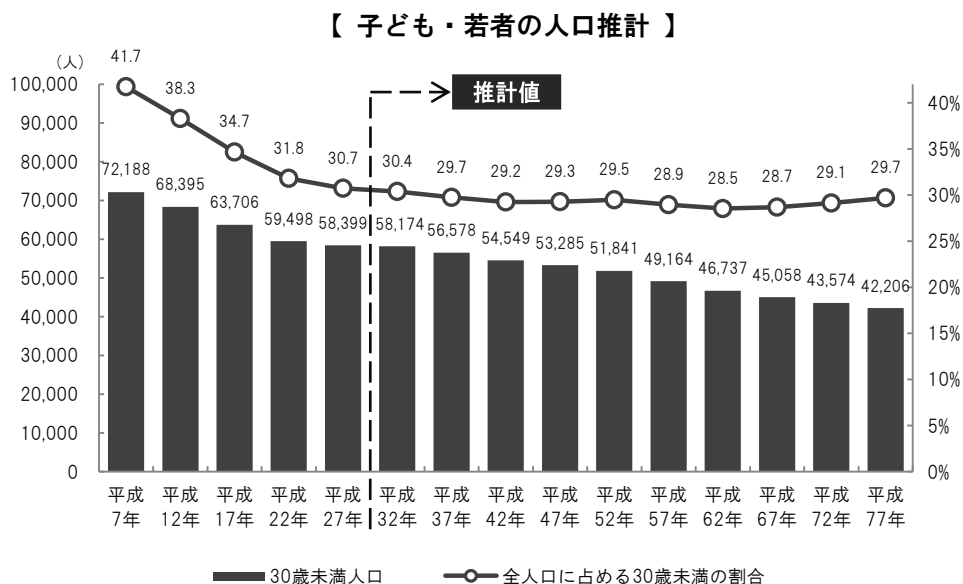
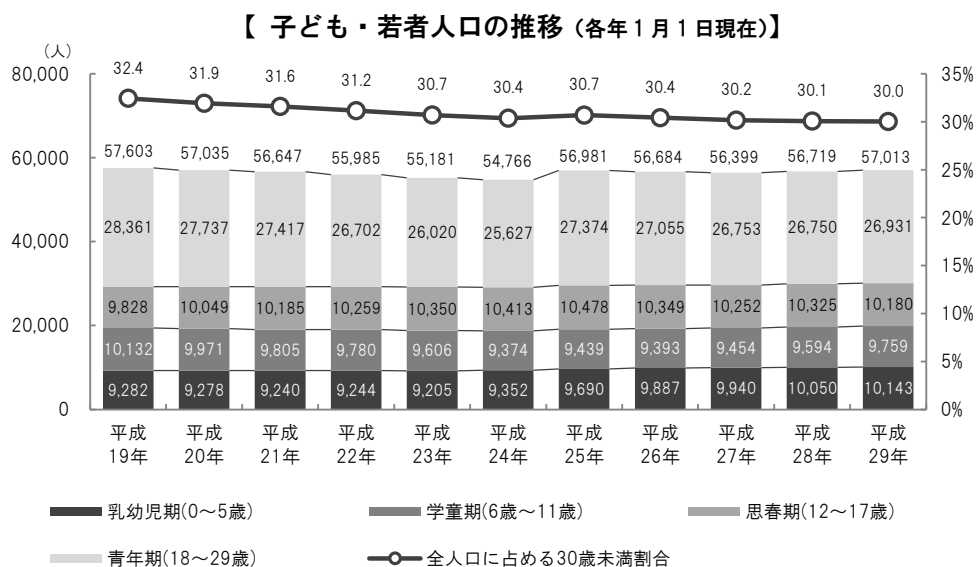


# 1 子ども・若者人口と世帯の現状

## (1) 子ども・若者人口

小平市の人口は、189,885 人（平成 29 年 1 月 1 日現在）で、そのうち、子ども・若者（0 歳～29 歳）の人口は、57,013 人と、人口の 30%を占めています。子ども・若者人口の推移をみると、この5年間では平成 27 年まで減少傾向でしたが、平成 28 年からは増加しています。一方、全人口に占める子ども・若者の割合は、年々減少傾向となっています。

子ども・若者の人口推計は、年々減少傾向となっていますが、人口に占める子ども・若者の割合では、平成 62 年の 28.5%を最低に、その後は増加すると予想されています。

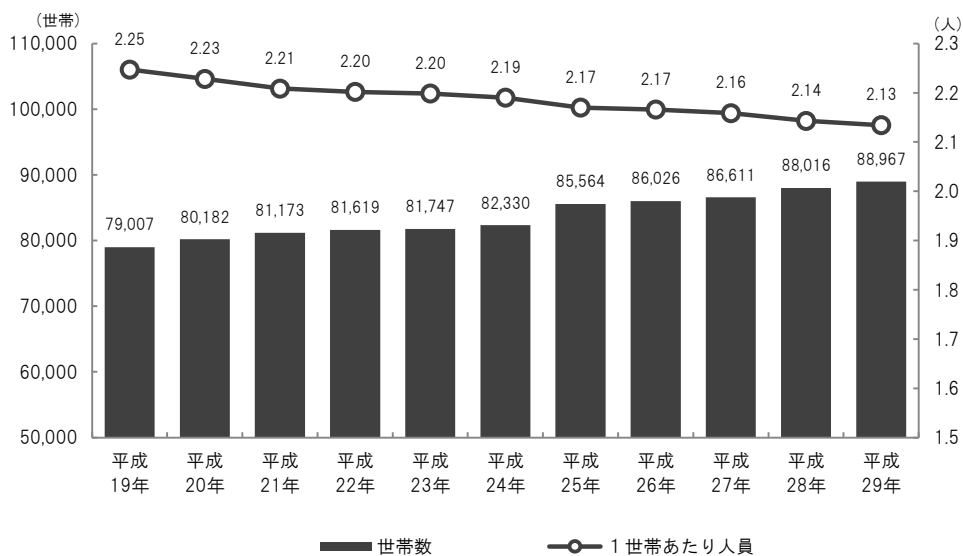


(2) 世帯の状況と推移

小平市の世帯の状況については、年々世帯数が増加していますが、1世帯当たりの世帯人員は平成29年で2.13と年々減少しています。

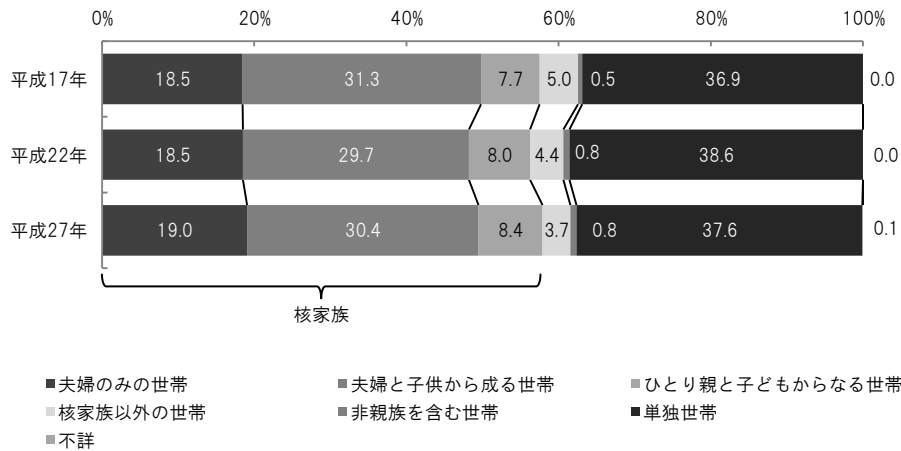
家族類型別割合の推移をみると、平成27年に夫婦と子どもから成る世帯が30.4%となり、前回調査時より増加しています。一方、単独世帯は平成27年に37.6%となり、一般世帯で最も多い家族類型となっています。

【世帯数及び世帯人員の推移（各年1月1日現在）】



【資料：住民基本台帳】

【世帯の家族類型別 一般世帯数の割合の推移】



【資料：国勢調査】

## 2 子ども・若者自身の状況

### (1) 子ども・若者の育成

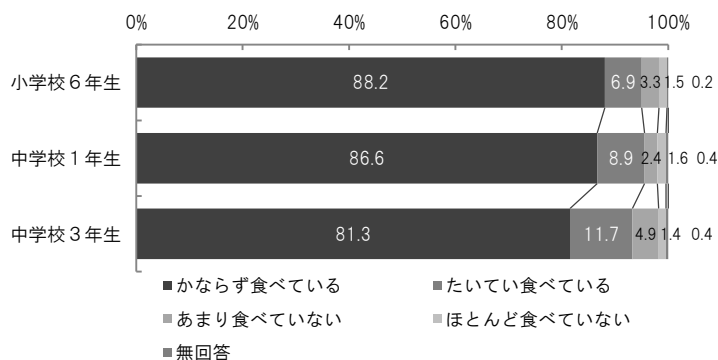
#### ①生活習慣

##### ・朝食

毎日朝食を食べている小・中学生は、小学校6年生で88.2%となっており、年齢が上がるほど少なくなっています。

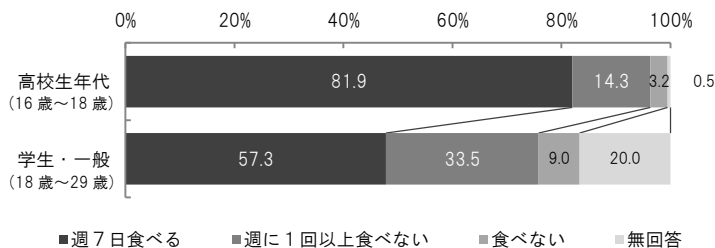
高校生年代では、81.9%と中学校3年生とほとんど差はありませんが、18歳以上の若者では、57.3%と少なくなっています。

【学校に行く前に朝ご飯をたべますか】



【資料：小平市の教育に関するアンケート調査】

【ふだん朝食をどの程度食べているか】



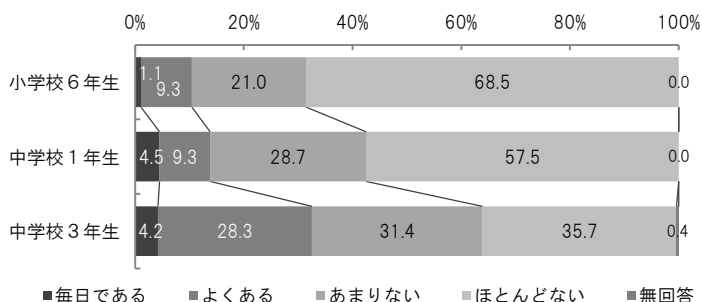
【資料：子ども・若者の意識・実態調査】

##### ・孤食

ひとりで夕食を食べることがある小・中学生は、小学校6年生で10.4%となり、学年が上がるほど多くなり、中学校3年生では32.5%となっています。前回の調査（教育委員会平成23年度実施）と比較すると、中学校3年生でひとりで食べる割合が多くなっています。

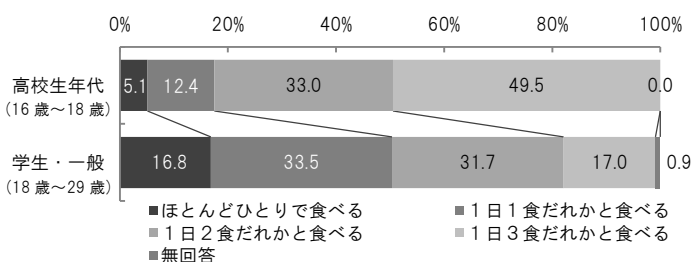
1日の食事でほとんどひとりで食べる人の割合は、高校生年代で5.1%、18歳以上の若者で16.8%となっています。

【ひとりで夕ご飯を食べることがありますか】



【資料：小平市教育に関するアンケート調査】

【1日の食事で誰かと食べる回数】



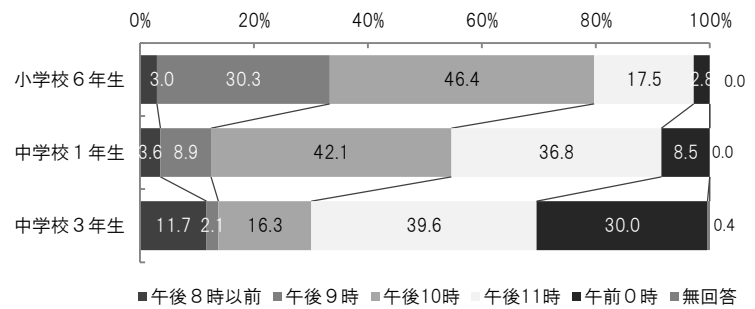
【資料：子ども・若者の意識・実態調査】

## ・就寝時間

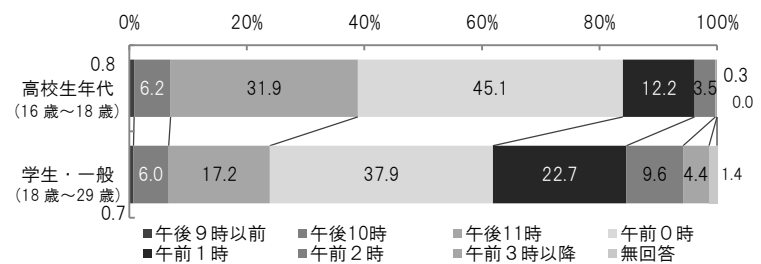
普段（月～金曜日）の就寝時間について、小学校6年生で「午後10時」が46.4%と多く、中学生になると更に夜型の傾向になり、中学校3年生で「午後11時」が39.6%、「午前0時以降」も30.0%と多くなっています。

高校生年代からは、「午前0時以降」が61.1%、18歳以上の若者で74.6%と年齢が上がるほど夜型の傾向となっています。

【いつも何時ごろに寝ていますか】



【資料：小平市の教育に関するアンケート調査】



【資料：子ども・若者の意識・実態調査】

## ②体力

平成28年度実施の「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」によると、小学校6年生では、東京都平均をソフトボール投げ以外の全てで上回っています。中学校3年生でも同様の結果となっています。

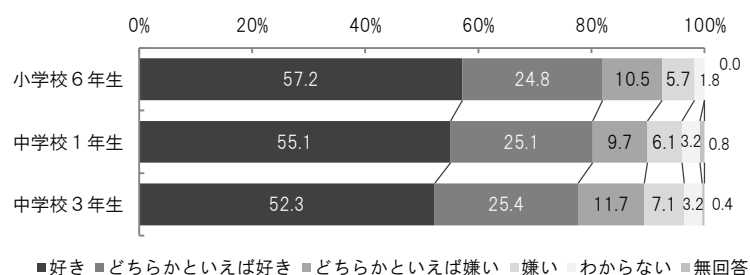
また、小・中学生で「運動することが好き」な人の割合は、7割を超えていますが、学年が上がるほど少なくなる傾向にあります。「学校の授業以外で運動をしない」人は、学年が上がるほど多くなる傾向にあり、中学校3年生で約20%となっています。高校生以上の若者では、「スポーツや運動をしない」人が3割を超えています。

【東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果（平成28年度 平均値）】

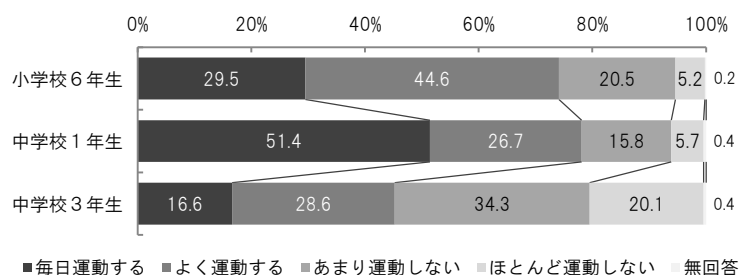
			握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	持久走	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ
			(kg)	(cm)	(cm)	(回)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)
小学校6年生	男	小平市	19.3	22.8	36.5	45.9	65.9		8.7	163.3	25.3
		東京都	19.3	22.0	35.7	45.3	59.1		8.8	161.8	25.4
	女	小平市	19.4	21.1	41.7	43.4	51.7		9.0	156.2	15.2
		東京都	19.1	20.4	40.8	42.9	45.9		9.1	153.7	14.8
中学校3年生	男	小平市	33.9	29.6	47.8	56.8		364.4	7.5	211.6	22.8
		東京都	33.6	29.5	45.1	54.9		373.2	7.6	208.4	22.8
	女	小平市	25.1	25.7	47.5	49.1		284.5	8.6	174.2	13.3
		東京都	24.7	24.5	46.3	47.5		290.9	8.7	170.0	13.2

【資料：東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査】

### 【運動することが好きですか】

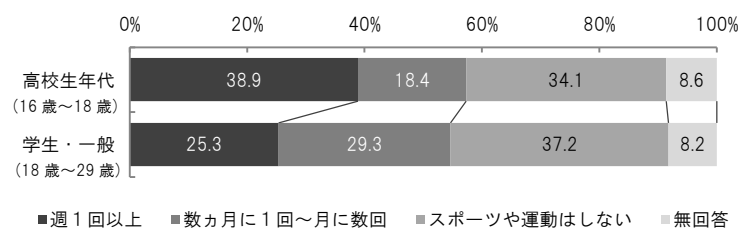


### 【学校の授業以外で運動しますか】



【資料：小平市の教育に関するアンケート調査】

### 【どのくらいの頻度でスポーツや運動をしますか】



【資料：子ども・若者の意識・実態調査】

## ③学力

平成 28 年度実施の「全国学力・学習状況調査」によると、各教科の平均正答率は、小学校 6 年生で東京都を下回りましたが、全国と比較すると上回っています。中学校 3 年生では、東京都、全国の前年正答率を上回っています。

また、小・中学生で「勉強が好き」な人の割合は、小学校 6 年生で最も多く 49.5%となっています。その割合は学年が上がるほど少なくなる傾向にあります。

1 日に 1 時間以上勉強している人の割合は、おおむね学年が上がるほど多くなる傾向にあります。一方、「ほとんどしない」は中学校 1 年生で 9.7%となっています。

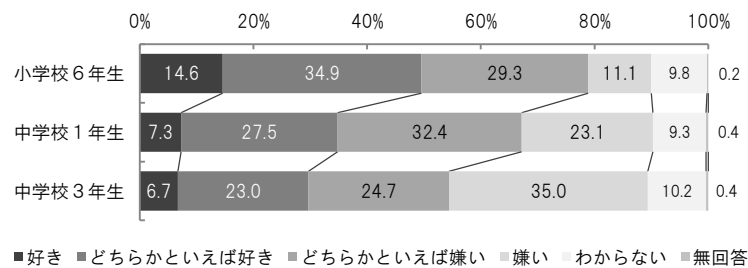
高校生では、1 日に 1 時間以上勉強している人の割合は、学年が上がるほど多くなる傾向にあります。一方、「全くしない」が高校 1 年生で 19.5%、高校 2 年生で 16.3%、高校 3 年生で 16.9%となっています。

【全国学力・学習状況調査における平均正答率】

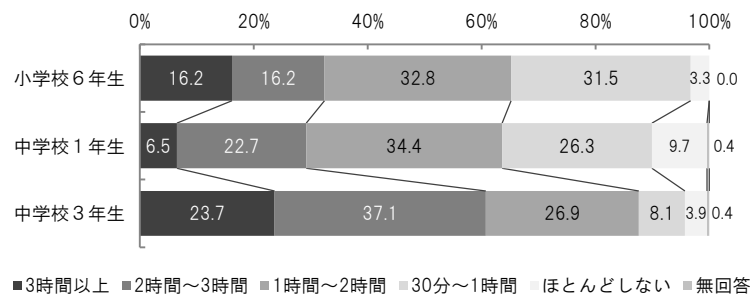
		小学校 6 年生				中学校 3 年生			
		国語		算数		国語		数学	
		A	B	A	B	A	B	A	B
平成 28 年度 平均正答率	小平市	73.0	59.2	78.7	49.3	77.8	70.4	64.4	46.4
	東京都	73.8	59.8	79.4	49.8	76.9	68.6	63.5	45.6
	全国	72.9	57.8	77.6	47.2	75.6	66.5	62.2	44.1

【資料：全国学力・学習状況調査（文部科学省）】

【勉強が好きですか】

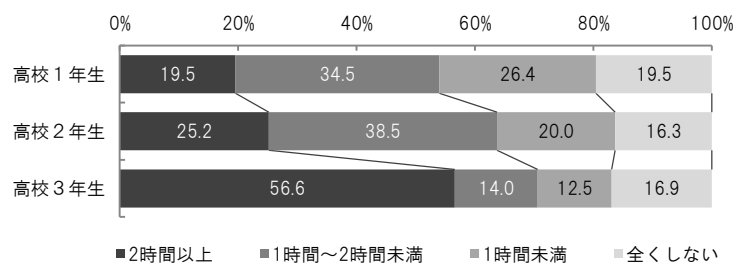


【学校の授業時間以外に 1 日にどれくらい勉強しますか】



【資料：小平市の教育に関するアンケート調査】

【学校や塾の授業以外でどのくらい勉強をしていますか】



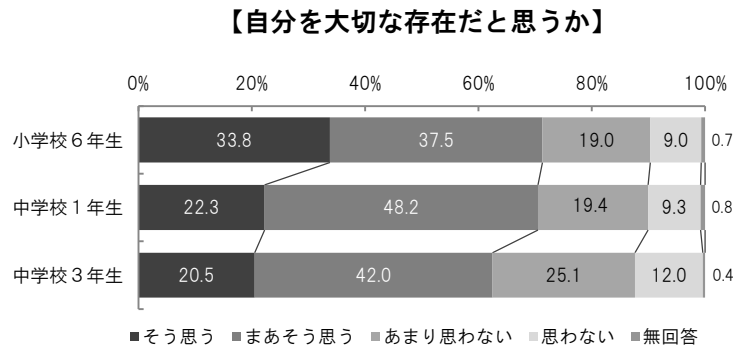
【資料：子ども・若者の意識・実態調査】



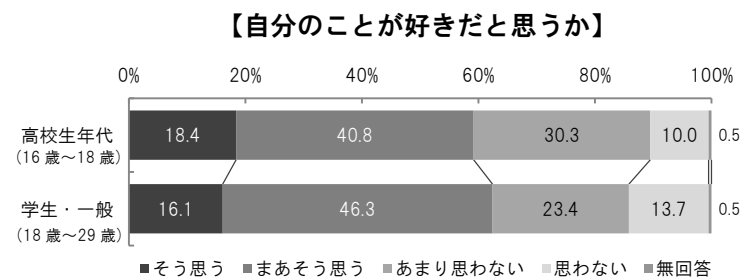
#### ④意識

##### ・自己肯定感

自分を「大切な存在（好き）」だと思う人の割合は、小学校6年生で71.3%と最も多くなっていますが、年齢が上がるほど少なくなる傾向にあります。



【資料：小平市の教育に関するアンケート調査】



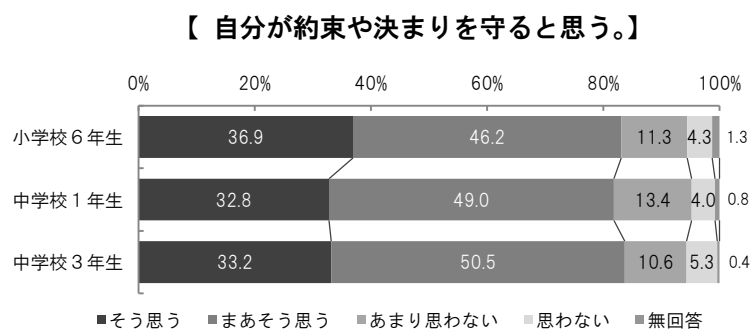
【資料：子ども・若者の意識・実態調査】

##### ・規範意識

小・中学生で自分が「約束や決まりを守る」と思う人の割合は、どの学年でも約8割を超えています。

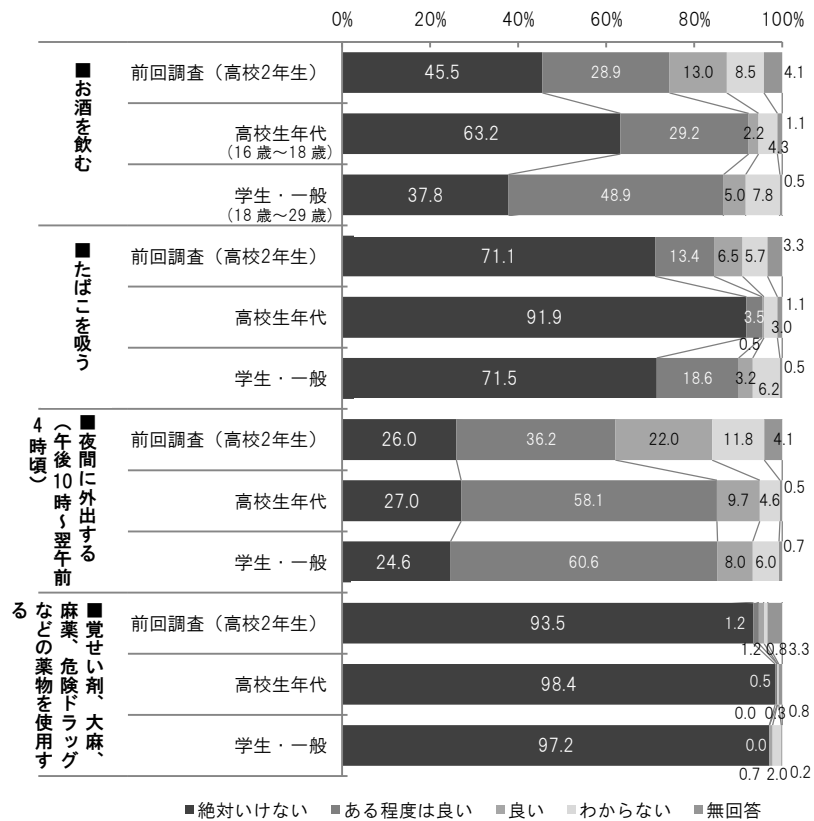
未成年者の非行への認識として、高校生年代で前回調査時と比較すると、全ての項目で意識が高くなっています。18歳以上の若者では、飲酒と喫煙に対する意識が低い傾向となっています。

また、16歳以上の若者に対して、「家庭で身につけるべき重要なこと」について尋ねると、あいさつや行儀、礼儀作法と考える若者が7割を超えています。



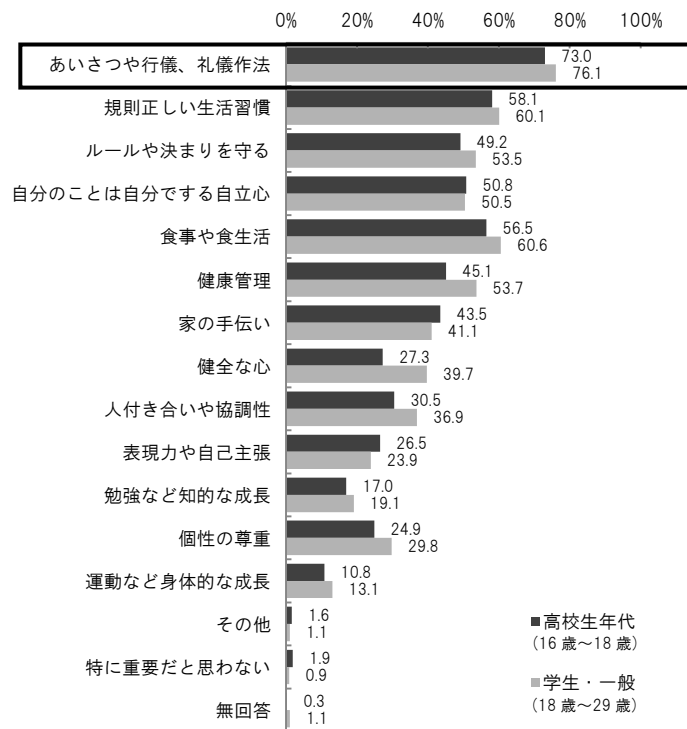
【資料：小平市の教育に関するアンケート調査】

### 【 未成年者の非行への認識】



【 資料：青少年の意識・実態調査（H19.1）／子ども・若者の意識・実態調査】

### 【 家庭で身につけるべき重要なこと】



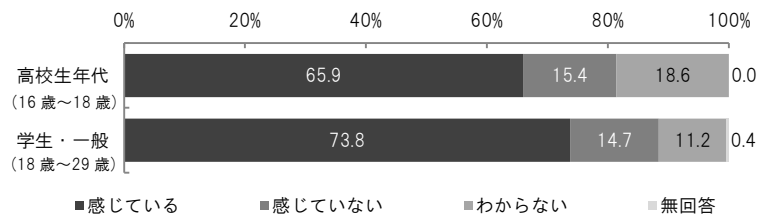
【 資料：子ども・若者の意識・実態調査】

・将来への不安感

「将来に不安を感じている」と思う人の割合は、高校生年代で 65.9%、18 歳以上の若者で 73.8% となっています。

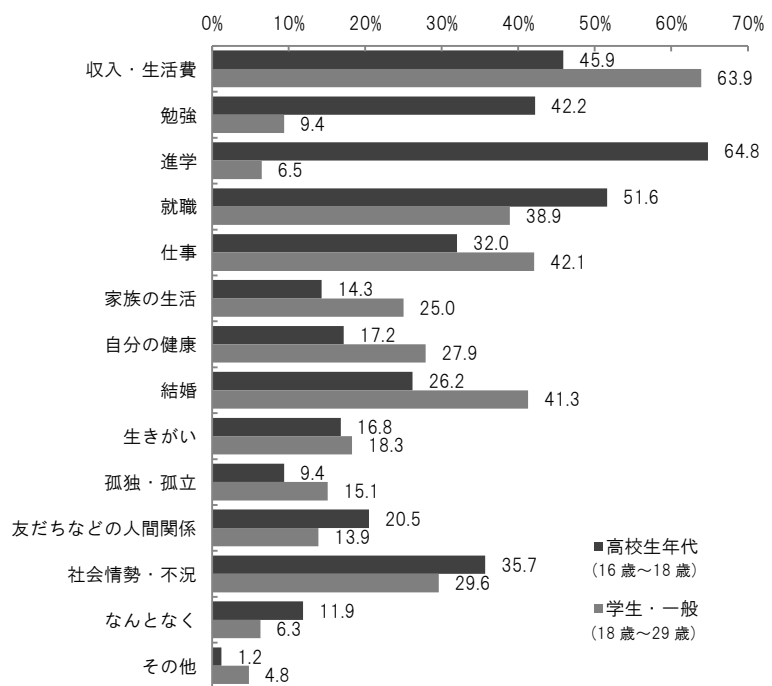
また、不安の内容として、高校生年代で進学や就職が多くなっています。18 歳以上の若者は、収入・生活費や仕事、結婚が多くなっています。

【将来に不安を感じているか】



【資料：子ども・若者の意識・実態調査】

【将来への不安の内容】

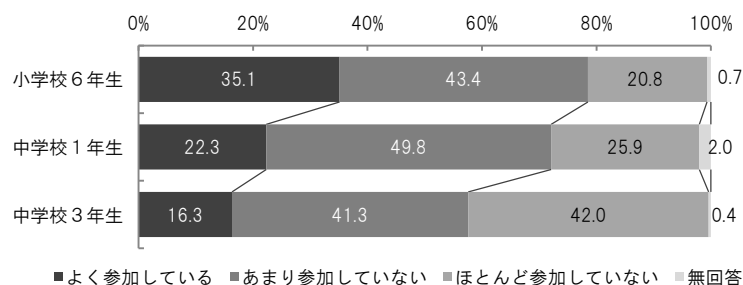


【資料：子ども・若者の意識・実態調査】

(2) 子ども・若者の地域活動

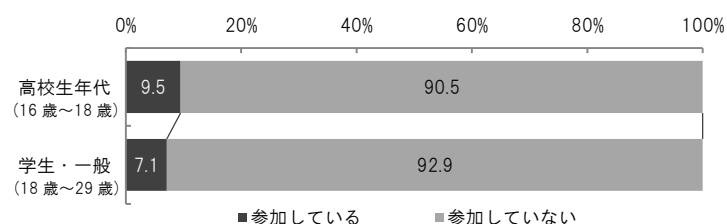
地域活動への参加の有無について、年齢が上がるほど参加状況が少なくなる傾向にあり、「よく参加している」が中学校 3 年生で 16.3%、高校生年代では 9.5% となっています。

【地域のお祭りや清掃活動などに参加していますか。】



【資料：小平市の教育に関するアンケート調査】

【現在地域の活動に参加していますか】



【資料：子ども・若者の意識・実態調査】

(3) 子ども・若者の体験、交流活動

市内には 19 の小学校区ごとに地域住民を主体とする青少年対策地区委員会が組織され、青少年の健全育成を目的に、地域に根差した多様な体験・交流行事が実施されています。また、市では、青少年リーダー養成講座や姉妹都市小平町との少年少女交歓交流事業などを実施しています。

【市が実施している主な体験・交流事業】

		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
青少年リーダー養成講座	ジュニア受講者数 (小学 5・6 年生)	40	40	40	40
	シニア受講者数 (中学・高校生)	44	44	51	56
姉妹都市小平町との 少年少女交歓交流	訪問先	小平市	小平町	小平市	小平町
	参加人数	小平市	20	18	14
		小平町	11	18	13
中学校生徒意見発表会	意見発表者数	28※	8	8	8
青少年音楽祭	出演団体数	17	19	19	18

※平成 24 年度は「子ども・教育フォーラム」として実施

【資料：地域学習支援課】

(4) 子ども・若者の参画

成人式では新成人等で構成される実行委員会が企画運営を行い、ダンスフェスティバルでは高校生や大学生が進行や会場整理を担うなど、子ども・若者の参画による事業を実施しています。

【子ども・若者が企画・運営に参画している活動】

		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
成人式実行委員会	新成人委員数	7	17	7	8
よさこいスクールダンス フェスティバル	出演者数	926	948	951	907
多摩六都ヤング・ダンス フェスティバル	出演チーム数	34	33	32	30

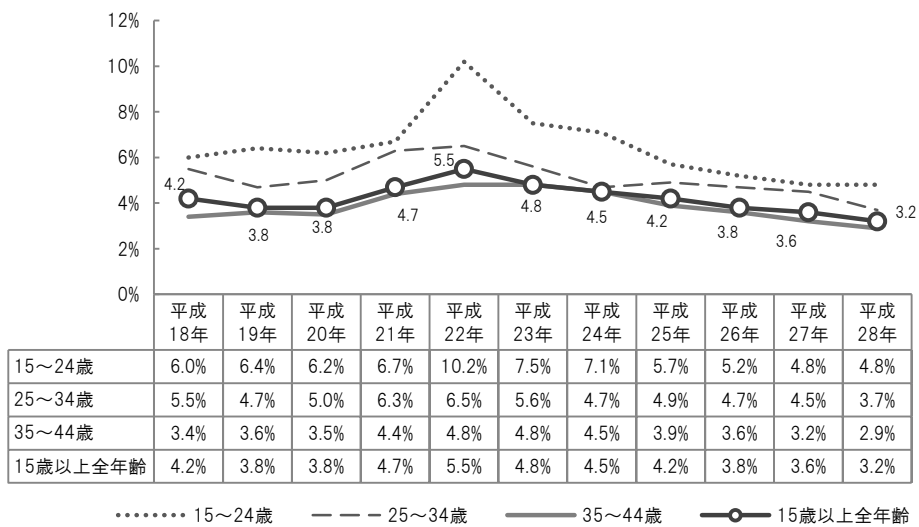
【資料：地域学習支援課】

## (5) 若者の就労等

若者の失業率は、平成 22 年を境に低下していますが、全年齢と比較すると、高い状態にあります。

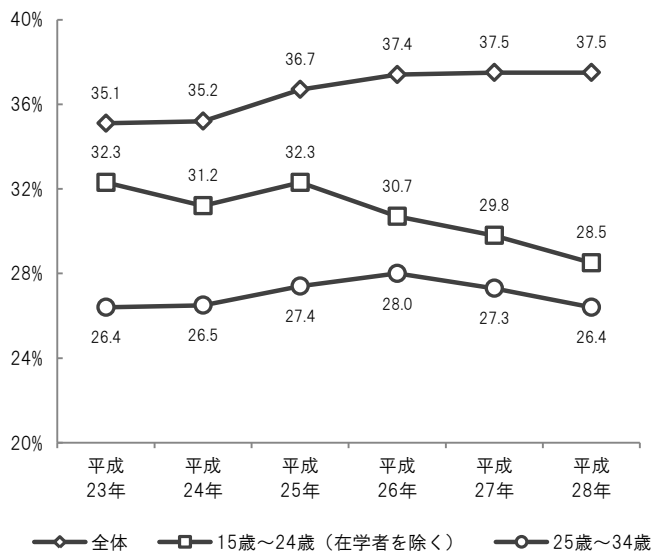
また、非正規雇用者の比率は 15～24 歳で平成 25 年から、25～34 歳で平成 26 年から低下しています。市が実施した「子ども・若者の意識・実態調査」結果の就労状況では、働いている人（在学中を除く。）の中で非正規雇用の割合が 27.0%となっています。18～21 歳で 42.1%、22～25 歳で 25.5%、26～29 歳で 25.8%となっています。

【 年齢階層別 完全失業率の推移（東京都）】



【 資料：労働力調査 】

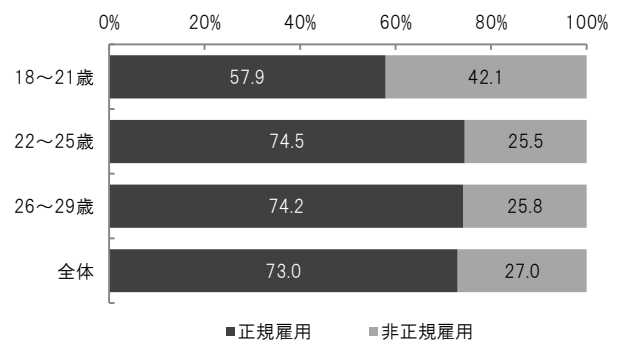
【 非正規雇用者比率（全国）】



※非正規雇用者比率とは、役員を除く雇用者に占める非正規の職員・従業員の割合のことをいう。

【 資料：労働力調査 】

【 正規・非正規雇用の状況（実態調査データから）】



※在学中を除く。  
※非正規雇用者は、契約社員、派遣社員、パート・アルバイト、専門職・技術職と答えた人で算出

【 資料：子ども・若者の意識・実態調査 】

### 3 困難を有する子ども・若者の状況

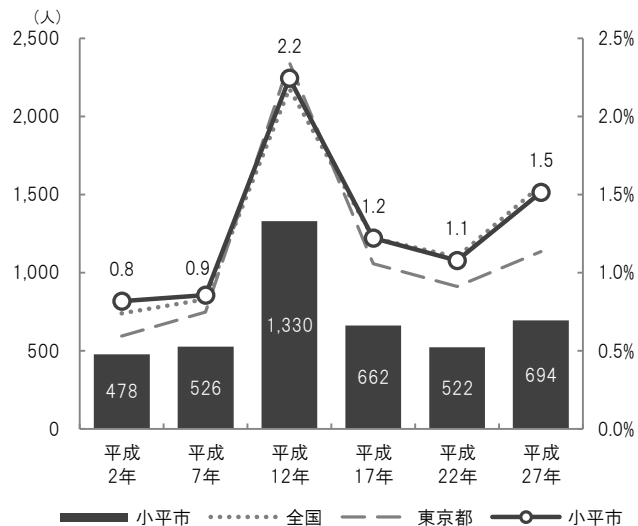
#### (1) ニート、ひきこもり

国勢調査結果によると、平成 27 年の小平市の若年無業者（ニート）の若者は、694 人で、人口に占める割合が 1.5% となり前回調査時と比較すると増加しています。

また、平成 27 年度に実施した「若者の生活に関する調査」結果（内閣府）から推計されるひきこもりの若者（15 歳～39 歳）は、全国で 54.1 万人となっています。

市が実施した「子ども・若者の意識・実態調査」結果（16 歳～29 歳）からひきこもりの若者を算出すると、有効回収率に占める割合が 1.5%（広義のひきこもり）となり、約 460 人のひきこもりの若者がいる計算となります。

【 若年無業者数と人口に占める割合の推移 】



若年無業者：15～34 歳の非労働力人口のうち家事も通学もしていない者

【 資料：国勢調査 】

【 ひきこもり群の定義・推計数（全国・小平市） 】

		有効回収率に占める割合 (%)		推計数			
		全国	小平市	全国	小平市	全国	小平市
狭義のひきこもり	普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	0.35	0.22	12.1 万人	計 17.6 万人	67 人	計 165 人
	自室から出るが、家からは出ない、自室からほとんど出ない	0.16	0.32	5.5 万人		98 人	
準ひきこもり	ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	1.06	0.96	36.5 万人			294 人

広義のひきこもり 1.57 1.50 54.1 万人 459 人

#### ※市のひきこもり群の算出について（16 歳から 29 歳で算出）

外出頻度から下記を除外したもので算出

①経過期間が 6 カ月未満の者

②現在働いていますかに専業主婦・主夫又は家事手伝いと回答した者

③自由な時間の過ごし方で「仕事・アルバイトをする」「家事や家の仕事の手伝いをする」

・推計数について、平成 29 年 1 月 1 日現在の 16 歳から 29 歳の人口 30,575 人で算出

#### ※国の算出方法（H27）（15 歳から 39 歳で算出）

外出頻度から下記を除外したもので算出

①経過期間が 6 カ月未満の者

②下記現在の外出頻度きかけの者

・妊娠した

・その他で、自宅で仕事をしているや出産、育児をしている

・病気を選択肢し病名が統合失調症又は身体的な病気を記入したもの

③あなたは現在はおらいますかに専業主婦・主夫又は家事手伝いと回答した者

④普段自宅にいるときによくしていることで「家事や育児」をすると回答した者

・総務省「人口推計」（2015 年）15～39 歳人口 3,445 万人から算出

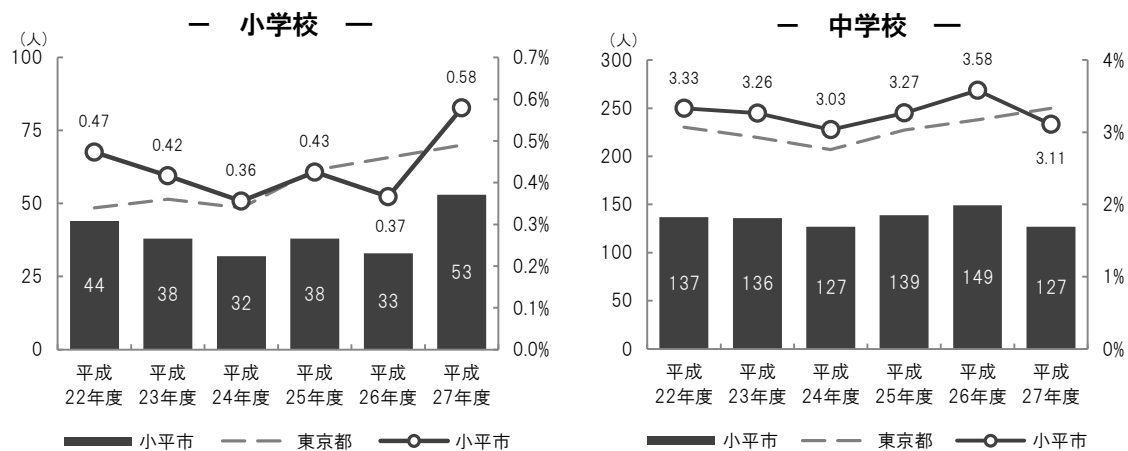
【 資料：「若者の生活に関する調査」（平成 27 年度内閣府）  
子ども・若者の意識・実態調査 】

## (2) 不登校、いじめ

不登校児童生徒数については、平成 27 年度で小学校は 53 人（出現率 0.58%）、中学校は 127 人（出現率 3.11%）となっています。また、いじめの認知件数については、小学校で 106 件、中学校で 152 件となっています。

また、小学生や中学生の頃に学校で経験したことを尋ねたところ、不登校を経験した人の割合が高校生年代で 5.4%、18 歳以上の若者で 7.3%となっています。いじめられた人の割合は高校生年代で 17.3%、18 歳以上の若者で 30.5%となっています。

【不登校児童生徒数及び出現率】



※不登校：年度間に連続又は断続して 30 日以上欠席した児童生徒で、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者（ただし、「病気」や「経済的理由」による者を除く。）をいう

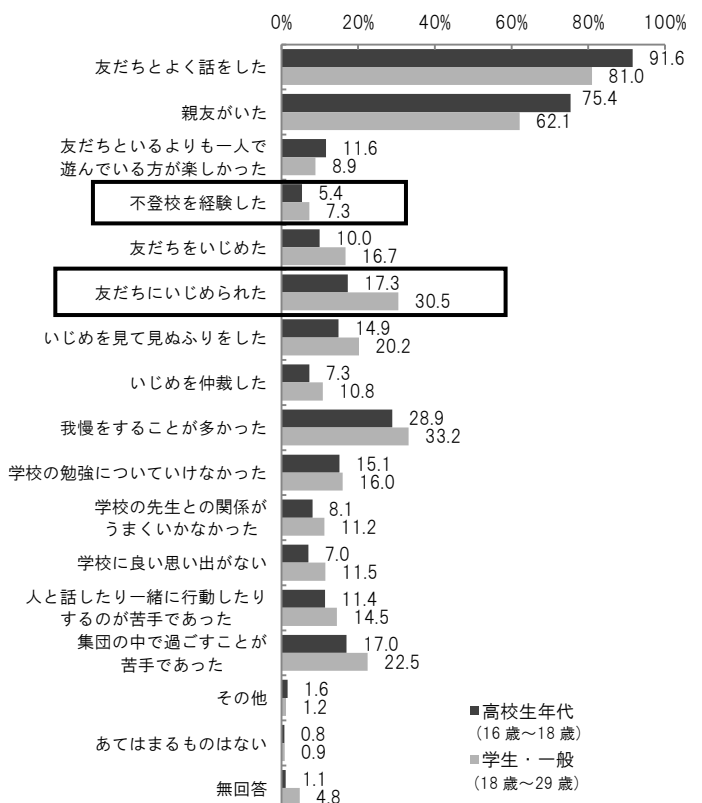
【資料：児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査報告】

【いじめの認知件数】

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
小学校	240	193	106
中学校	141	141	152

【資料：児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査報告】

【小学生や中学生の頃に学校で経験したこと】



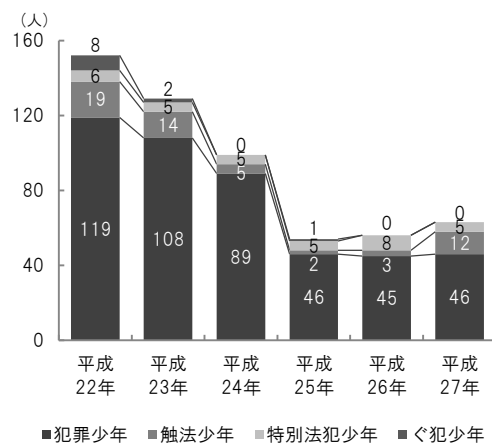
【資料：子ども・若者の意識・実態調査】

### (3) 非行

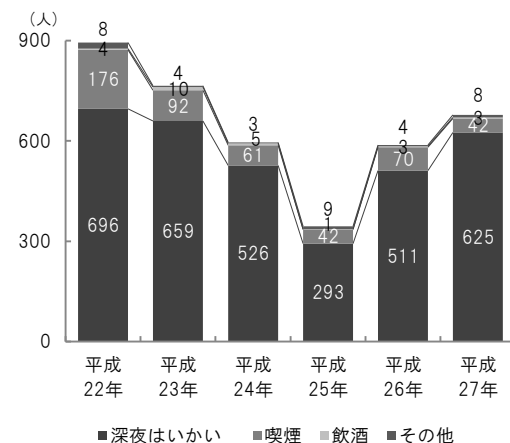
市内における非行少年等の検挙・補導状況は、年々減少傾向にありましたが、平成 26 年から若干増加し、平成 27 年では 63 人となっています。

不良行為少年の補導状況においても年々減少傾向にありましたが、平成 26 年から増加傾向にあります。深夜はいかい・喫煙が全体の 90%以上を占めています。市が実施した「子ども・若者の意識・実態調査」結果においても、高校生以上で「夜間に外出する」ことを絶対いけないと意識している人の割合が、前回調査時とほぼ変わりがなく約 25%となっており（P8 参照）、非行への認識として希薄であることがわかります。

【 非行少年等の検挙・補導状況 】



【 不良行為少年の補導人員 】



【 資料：警視庁の統計 ※グラフ内の数字は小平警察署の値 】

刑法犯少年：「刑法」に規定する罪を犯した犯罪少年（罪を犯した 14 歳以上 20 歳未満の少年）及び触法少年（刑罰法令に触れる行為をした 14 歳未満の少年）の総称。

特別法犯少年：特別法令（刑法犯以外の犯罪。覚せい剤取締法違反、売春防止法違反など）に違反する行為をした犯罪少年及び触法少年

ぐ犯少年：保護者の正当な監督に服しない性癖があるなど一定の事由があつて、その性格又は環境に照らして、将来、罪を犯し、又は刑罰法令に触れる行為をするおそれのある少年。



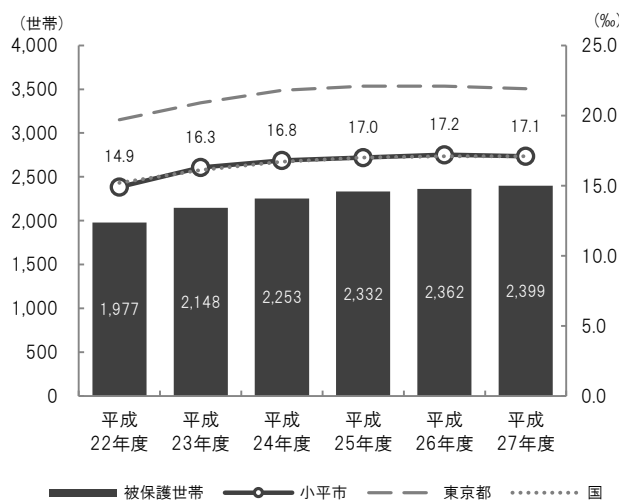
#### (4) 子どもの貧困

子どもの相対的貧困率は、平成 24 年に 16.3%となり、子どもの貧困問題への対応が大きな課題となっています。

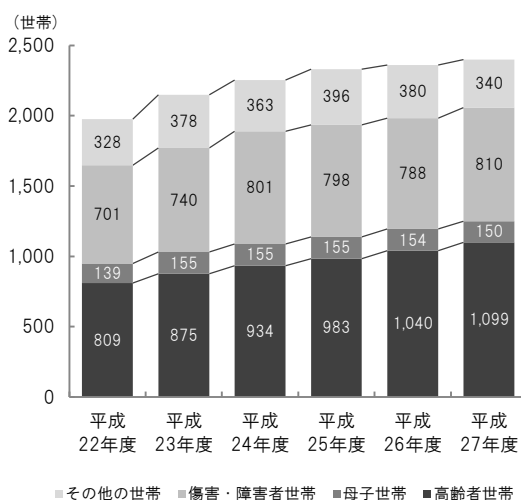
市の貧困の状況を表すひとつの指標として、生活保護の被保護世帯数及び保護率が増加傾向にあります。高年齢者世帯の増加によるものとなっています。また、経済的理由により就学援助を受けている受給者数は、この数年減少傾向となっています。

ひとり親家庭については、平成 27 年のひとり親世帯数が 863 世帯となり、減少傾向となっています。世帯数に占める割合では、東京都とほぼ同じ割合となっていますが、全国と比較すると低くなっています。児童扶養手当の受給者数をみると、一部停止延べ人数は増加傾向となっていますが、全部支給延べ人数は減少傾向となっています。

【 生活保護世帯数(除 停止世帯)と保護率の推移 】

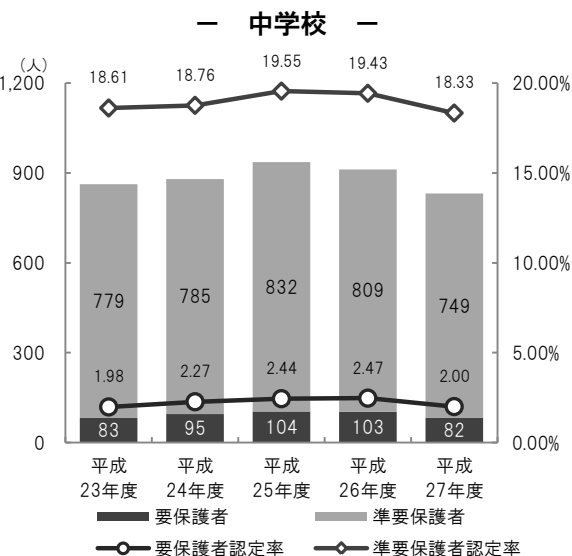
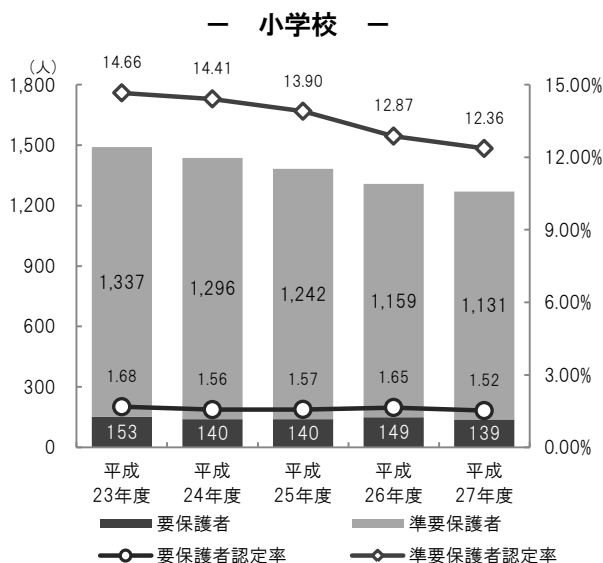


【 世帯類型別生活保護世帯数(除 停止世帯)推移 】



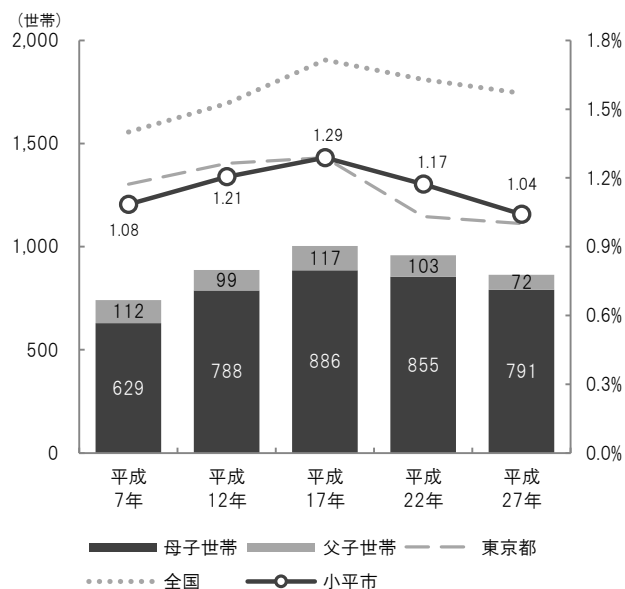
【 資料：生活支援課 】

【 就学援助受給者数・認定率の推移 】



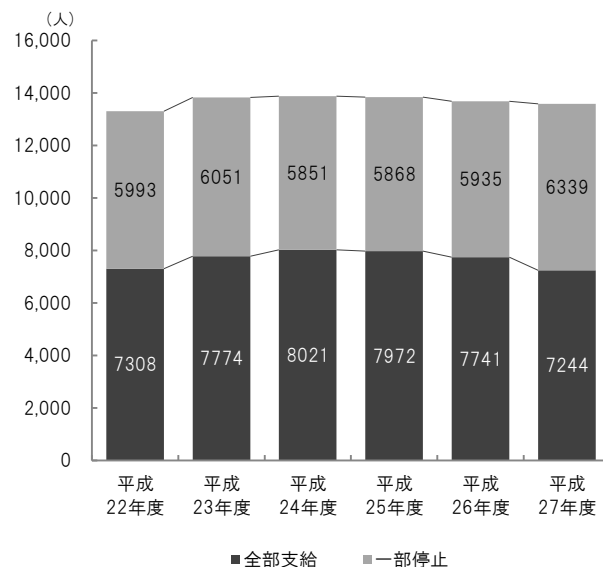
【 資料：学務課 】

## 【ひとり親世帯数と全世帯数に占める割合の推移】



【資料：国勢調査】

## 【児童扶養手当受給者（延べ人数）の推移】



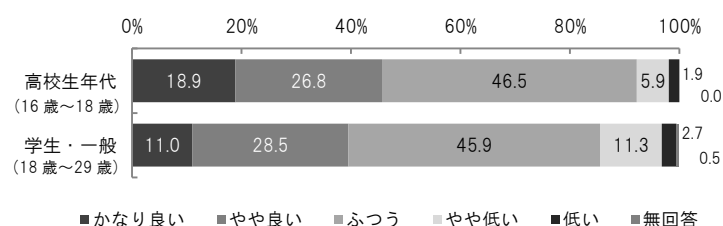
※受給者の所得に応じて全部支給もしくは一部停止となる

【資料：子育て支援課】

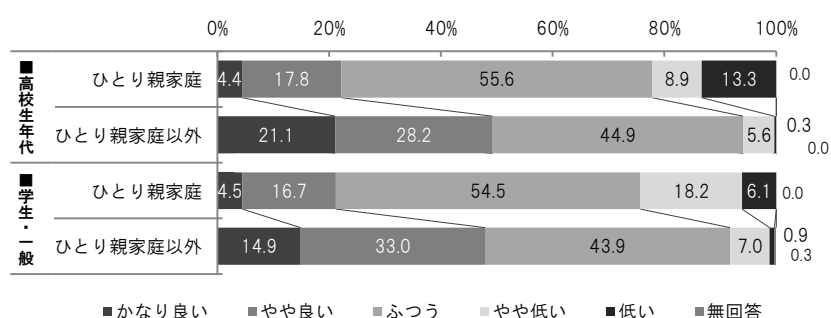
高校生以上の若者に家の暮らし向きを尋ねたところ、高校生年代では46.5%、18歳以上の若者では45.9%が「ふつう」と回答しています。また、「やや低い」と「低い」に回答した人は高校生年代で7.8%、18歳以上の若者で14%となっています。

ひとり親家庭で暮らし向きを見てみると、高校生年代で「やや低い」と「低い」に回答した人は22.2%、18歳以上の若者が24.3%となり、ひとり親家庭以外と比較すると多くなっています。

## 【家の暮らし向き】



## 【家の暮らし向き×ひとり親家庭】



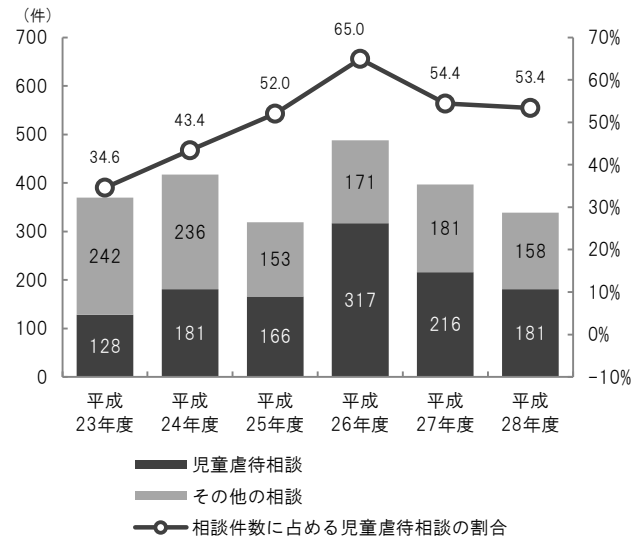
【資料：子ども・若者の意識・実態調査】

(5) 児童虐待

市が対応する養護相談※の件数は、平成26年度の488件を最高に減少しています。児童虐待相談件数の割合も減少傾向にあります。また、養護相談の内容は、被虐待児や家庭環境が多くなっています。

※養護相談：父又は母等保護者の家出、失踪、死亡、離婚、入院、稼働及び服役等による養育困難児、棄児、迷子、虐待を受けた子ども、親権を喪失した親の子、後見人を持たぬ児童等環境の問題を有する子ども、養子縁組に関する相談。

【子ども家庭支援センター 養護相談受付状況】



【資料：子育て支援課】

【子ども家庭支援センター 養護相談の内容】

														(件)
	孤児	迷子	被虐待児	養 育 困 難									合 計	その他
				家出	死亡	離婚	傷病	出産	就労	拘置 拘留	家庭 環境	その他		
平成 23 年度	0	0	128	2	1	3	38	44	5	4	129	3	229	13
平成 24 年度	0	0	181	4	3	4	31	27	7	3	140	7	226	10
平成 25 年度	0	0	166	2	0	2	24	30	5	2	80	6	151	2
平成 26 年度	1	0	317	2	0	2	33	26	6	0	88	9	166	4
平成 27 年度	0	0	216	0	0	8	25	15	8	2	111	7	176	5
平成 28 年度	0	0	181	0	0	4	32	29	5	0	84	1	155	3

【資料：子育て支援課】

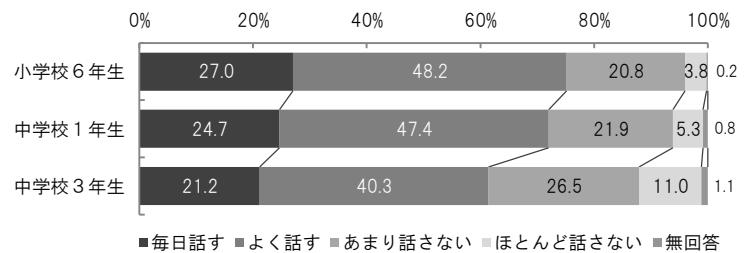
## 4 家庭・地域・社会環境

### (1) 家庭

家族の人とよく話す人の割合は、学年が上がるほど少なくなる傾向にありますが、6割以上となっています。

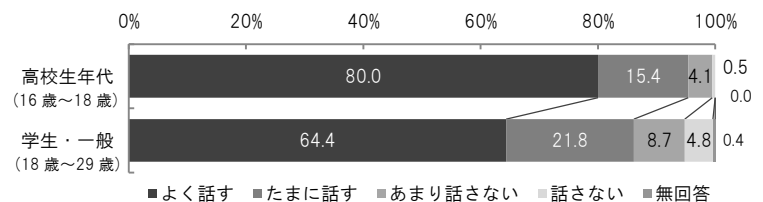
また、自由な時間の使い方では、パソコンや携帯電話を利用するが高校生年代で78.4%、18歳以上の若者で79.1%となっています。

【学校であったことや友だちのことを家族に話しますか】



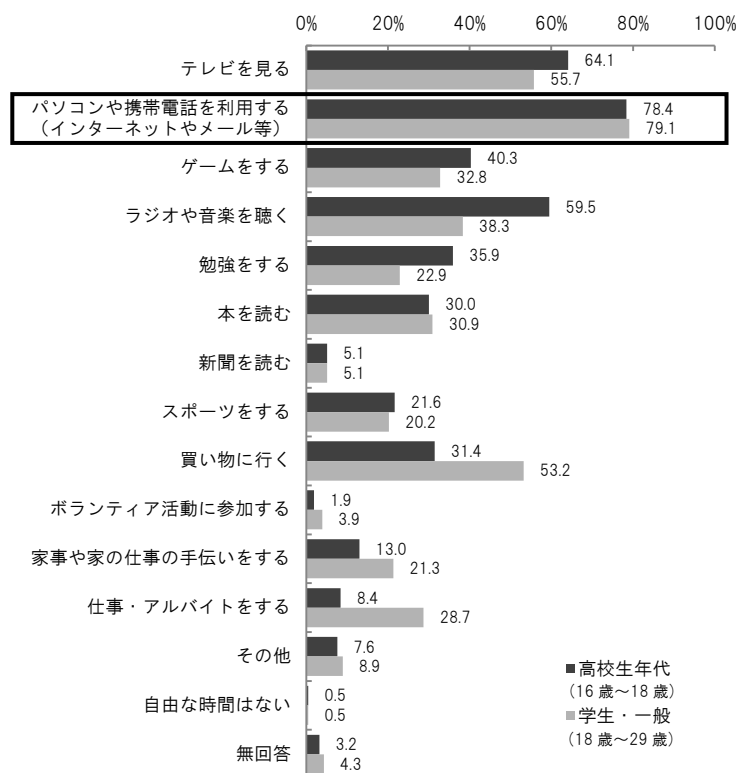
【資料：小平市の教育に関するアンケート調査】

【ふだん家族と話をしますか】



【資料：子ども・若者の意識・実態調査】

【自由な時間の使い方】



【資料：子ども・若者の意識・実態調査】

## (2) 地域

小・中学生については、地域の方たちによる青少年対策地区委員会や放課後子ども教室、学校支援ボランティア等、学校を中心とした地域との結びつきや人間関係が築かれる環境にあります。

高校生以上の若者については、近所で会ったときにあいさつをする人の割合が高校生年代で 94.5%となっていますが、学生・一般で 86.0%となっています。また、地域活動に参加していない若者が 9 割を超えている状況もあり、年齢が上がるほど地域とのつながりが薄くなっていく傾向にあります。

地域活動に参加していない理由として、

「地域でどのような活動が行われているか知らない」、「参加する時間的余裕がない」が約 4 割となっています。

【放課後子ども教室の実施状況】

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
小学校						
実施校数	13	15	18	18	19	19
回数	2,229	2,575	3,187	3,350	3,636	3,499
参加延べ人数	57,055	59,284	79,482	76,733	89,306	85,534
中学校						
実施校数					2	4
回数					132	281
参加延べ人数					2,641	4,108

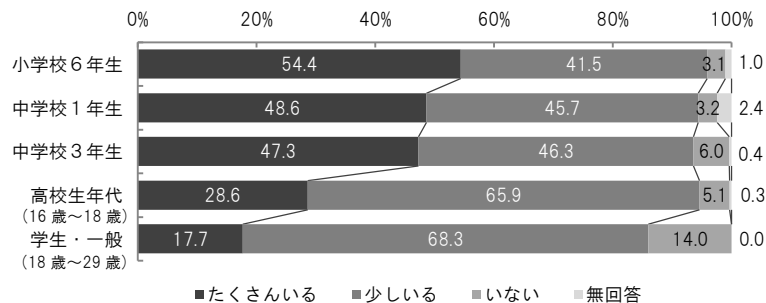
【資料：地域学習支援課】

【学校支援ボランティアの活動状況】

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
活動延べ人数	40,098	34,796	37,831	34,615	37,019	36,070
活動延べ時間	58,892	64,189	67,862	57,075	60,346	51,656

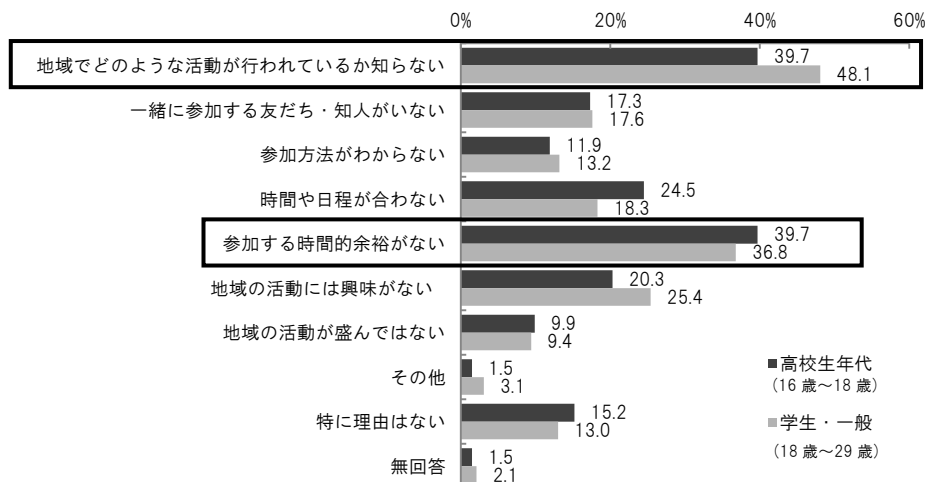
【資料：指導課】

【近所で会ったときにあいさつする人の有無】



【資料：小平市の教育に関するアンケート調査／子ども・若者の意識・実態調査】

【地域活動に参加していない主な理由】



【資料：子ども・若者の意識・実態調査】

### (3) 情報通信

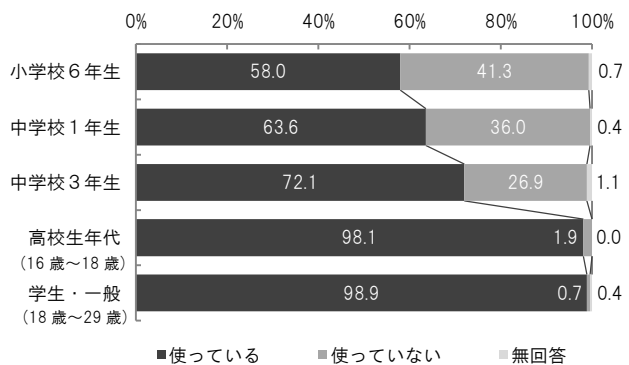
携帯電話・スマートフォンの保有状況は、小学校6年生で58.0%、中学校3年生では72.1%、高校生以上になると98%を超えており、携帯電話・スマートフォンの普及が進んでいることがわかります。

使用時間を見ると、高校生年代で「1 時間から 3 時間」、18 歳以上の若者で「2 時間から 3 時間」が多くなっています。

また、小・中学生で携帯電話またはスマートフォンを使っていないと仲間はずれに

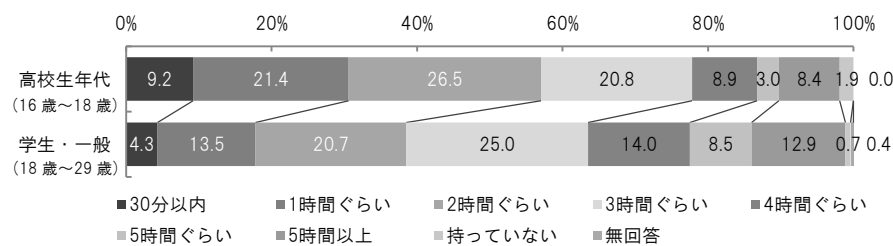
されたり、友だちとトラブルになったことがある人が一定数おり、学年が上がるほど多くなる傾向にあります。インターネット等で被害にあったことがある人は高校生年代で約3割、18 歳以上の若者で5割を超えています。

【携帯電話・スマートフォンを使っているか】



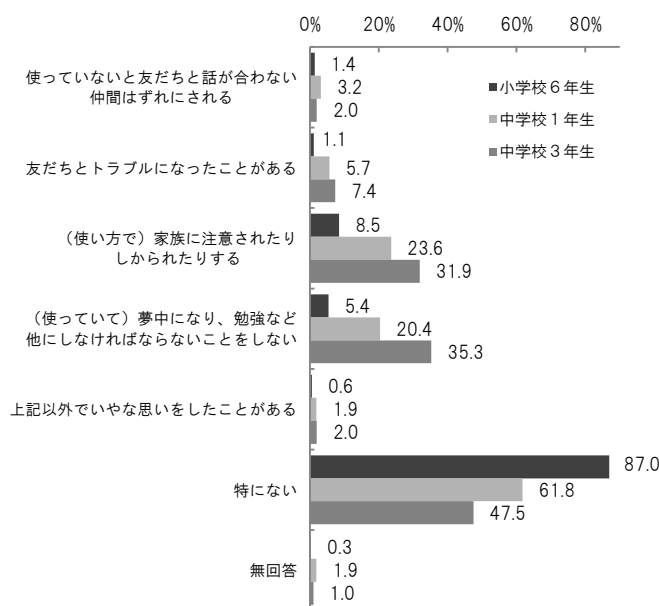
【資料：小平市の教育に関するアンケート調査  
／子ども・若者の意識・実態調査】

【携帯電話・スマートフォンの1日あたりの平均使用時間】



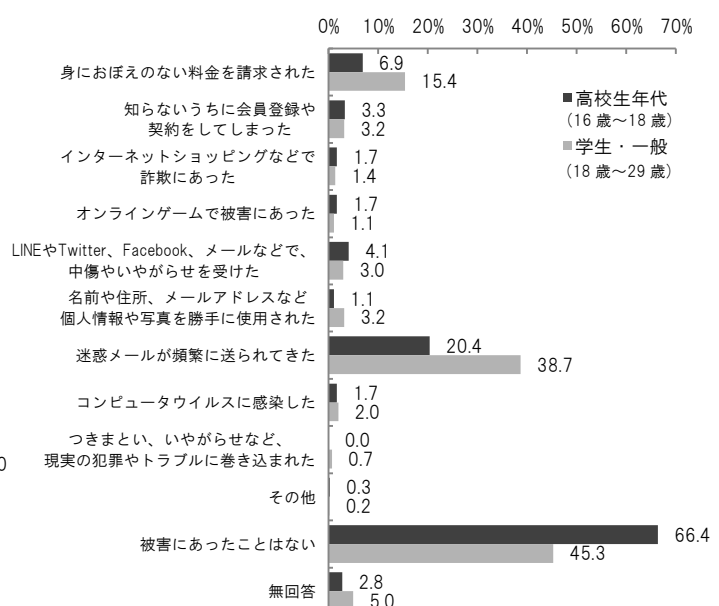
【資料：子ども・若者の意識・実態調査】

【携帯電話またはスマートフォンを使用しての出来事】



【資料：小平市の教育に関するアンケート調査】

【インターネットトラブルの内容】



【資料：子ども・若者の意識・実態調査】

#### (4) 防犯

平成 28 年度中の市内における不審者情報は、11 件となっています。また、こども 110 番のいえの協力者は、約 1,800 件となっています。

小・中学生に家族の人と防犯・安全のためにしていることを尋ねると、全学年で「出かけるときはどこへ誰と行くのか話をする」が最も多く、次いで「夜遅い時間に外に出ない」となっています。小学校 6 年生では、防犯ブザーやこども 110 番のいえの場所を確認しているが約 22%となっていますが、中学生では 10%に満たない状況です。中学校 3 年生では、防犯・安全のために何もしていない人が 15.2%となっています。

#### 【防災・防犯緊急情報メールマガジンの配信情報】

	(件)
	平成 28 年度
声かけ	7
公然わいせつ	4
合 計	11

※平成 28 年 5 月事業開始

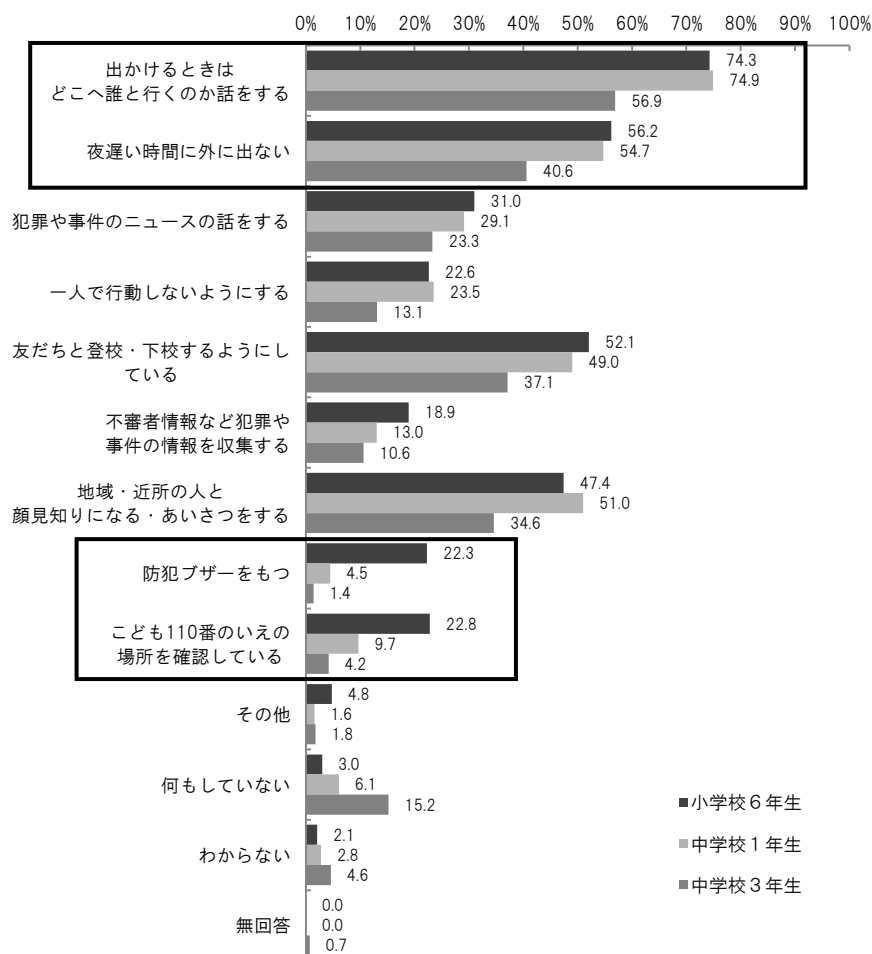
【資料：地域安全課】

#### 【こども 110 番のいえ協力者件数の推移】

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
協力者件数	1,754	1,818	1,801	1,849	1,856	1,826

【資料：地域安全課】

#### 【家族の人と、防犯・安全のためにしていること】



【資料：小平市の教育に関するアンケート調査】

## (5) 各相談窓口等における相談状況

平成 28 年度の相談状況について、子ども家庭支援センターでは、21,319 件の相談が寄せられています。経済的に困っている方を対象とした相談窓口である こだいら生活相談支援センターへの相談は 240 件あり、そのうち若者からの相談件数は 20 代までが 28 件、30 代で 42 件となっています。また、教育相談室の相談状況として面談が 354 件、電話が 511 件となっています。

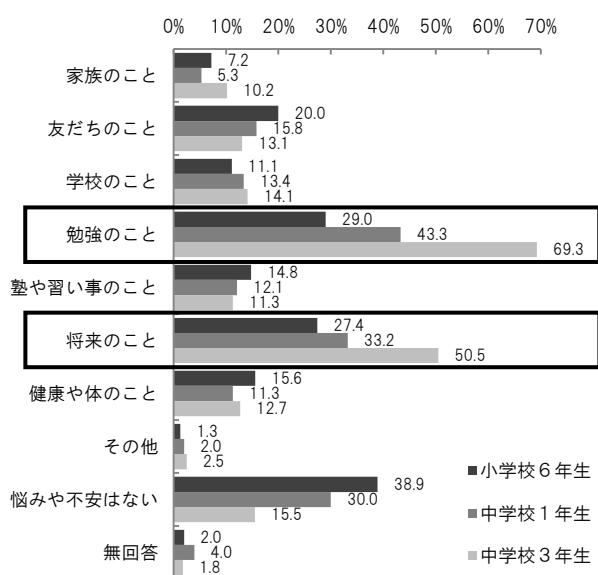
困っていることや悩んでいることを尋ねたところ、小・中学生は勉強のことや将来のことが多くなっています。高校生年代では勉強や進学が多く、18 歳以上の若者は収入や生活費、仕事関係が多くなっています。また、相談先として小・中学生は親と友だちが多くなっていますが、自分で解決する人が 3 割以上となっています。高校生以上の若者も同様に、親と友だちが多くなっていますが、誰にも相談しない人が 1 割強となっています。

【各相談窓口 相談件数の推移】

		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
子ども 家庭支援 センター	訪 問		1,722	1,464	1,319	8,042	7,410	7,503
	面 談	1,708	2,135	517	529	1,185	1,454	1,221
	電話等	2,543	3,857	5,123	3,554	9,874	13,400	12,595
こだいら 生活相談 支援センター	来所・電話 内訳) ～20 代						331	240
	30 代						24	28
					※平成 27 年度開設		50	42
教育相談室	面 談	225	234	272	295	260	324	354
	電 話	356	332	410	425	438	472	511

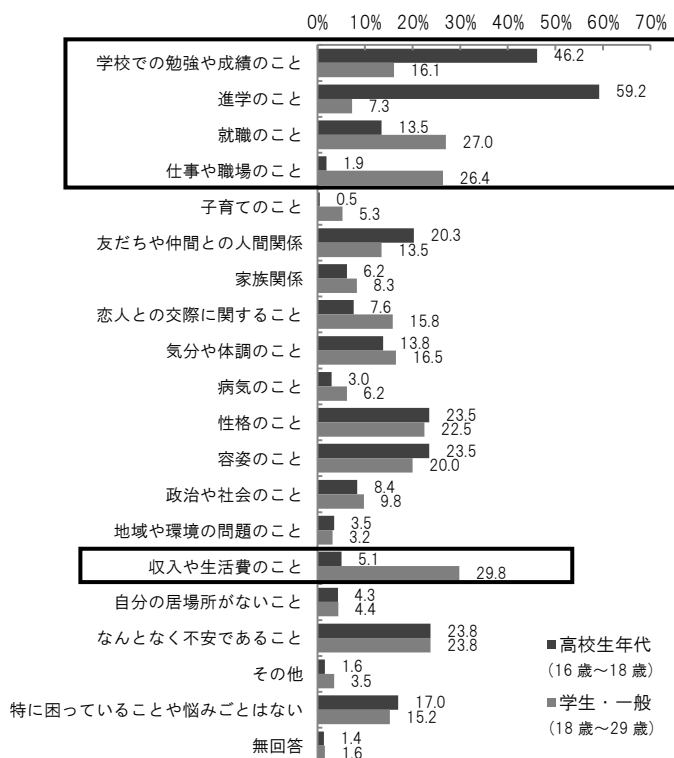
【資料：子育て支援課、生活支援課、指導課】

【悩んでいることや不安に思っていること】



【資料：小平市の教育に関するアンケート調査】

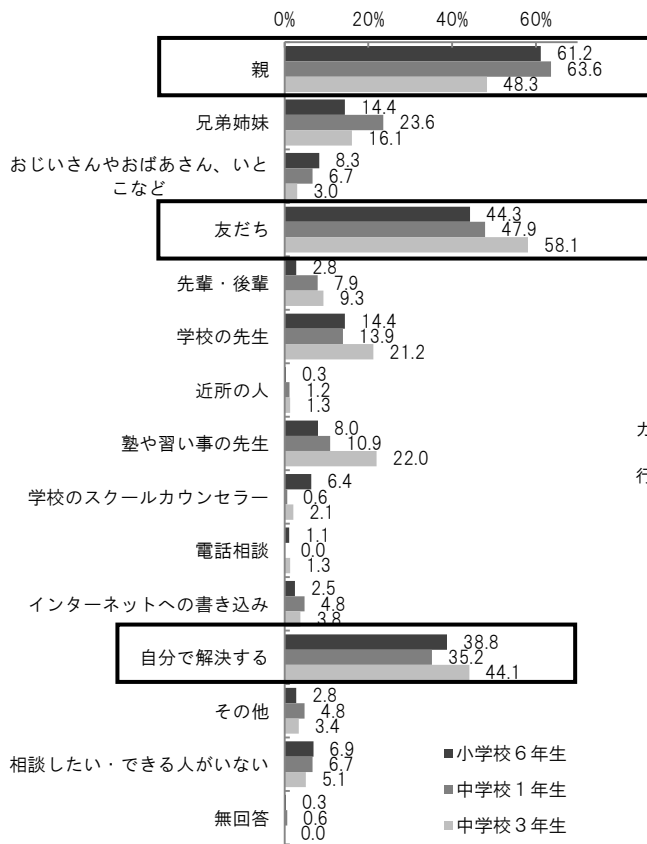
【困っていることや悩んでいること】



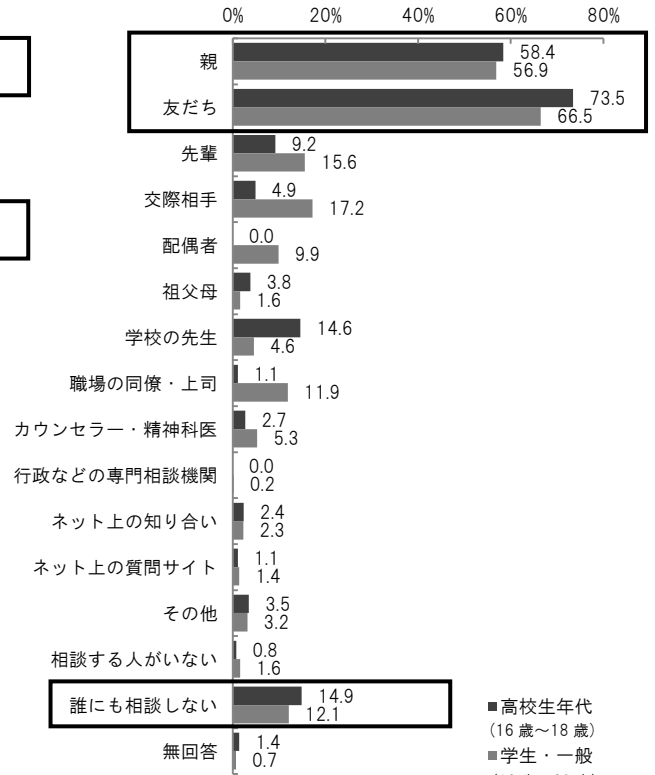
【資料：子ども・若者の意識・実態調査】



# 【悩みや不安があるときの相談先】



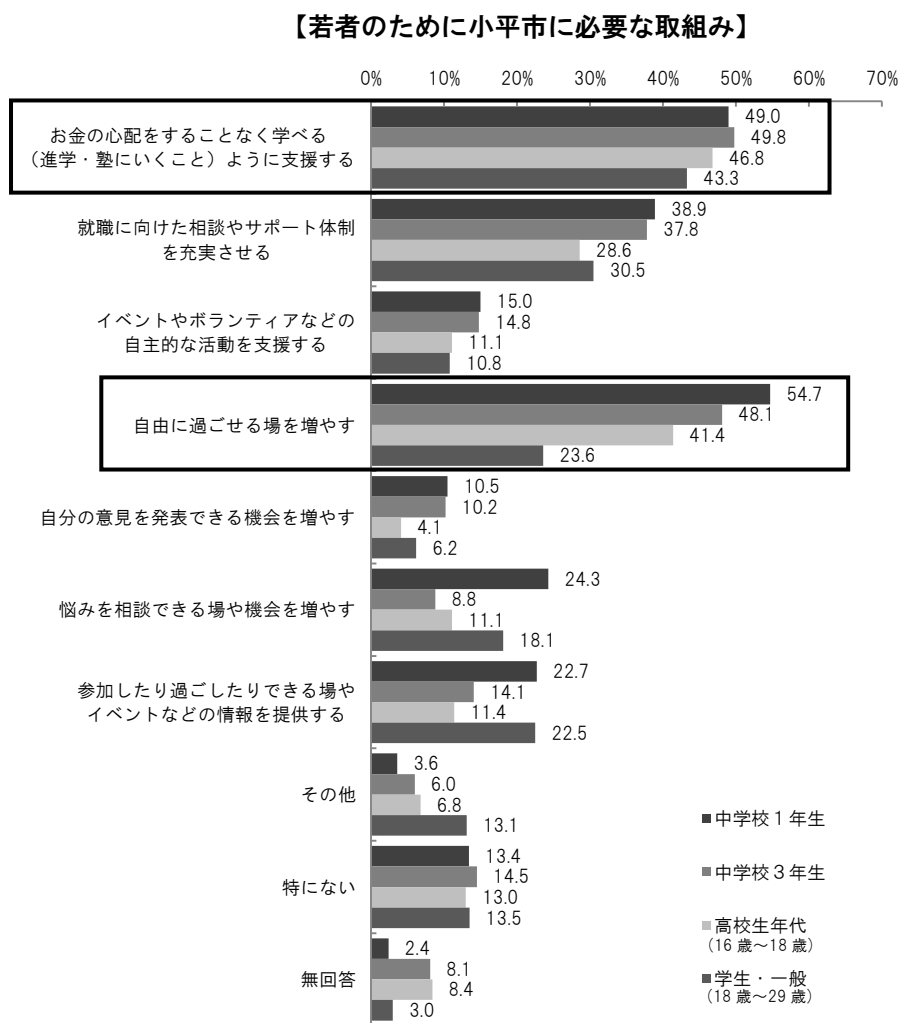
【資料：小平市の教育に関するアンケート調査】



【資料：子ども・若者の意識・実態調査】

## 5 市の青少年施策に求めること

市の青少年施策に求めることは、「お金の心配をすることなく学べる（進学・塾に行くこと）ように支援する」が各年代で多くなっています。また、「自由に過ごせる場を増やす」は中学校1年生で54.7%と最も多くなっていますが、年齢が上がるほど少なくなっています。



【資料：小平市の教育に関するアンケート調査  
／子ども・若者の意識・実態調査】